

(別紙の2)

自己評価及び外部評価票

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価(事業所記入)		外部評価(評価機関記入)	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I. 理念に基づく運営						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	全体会議で理念を共有しています。「生活リハビリ」では日々の生活・活動の中で利用者様に合ったリハビリが行えるように努め、「コミュニケーション」日々の関わりを大切にしています。	理念について確認しながら、一人ひとりの状況を見て、ADL(日常生活動作)が低下しないよう支援しています。家庭的な雰囲気を大事にしながら、体操やゲーム、作品作り等、退屈しないように「生活リハビリ」の実践をすすめています。「コミュニケーション」については、笑顔で暮らせるように、話題を提供するなど利用者にも働きかけています。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	コロナが減ってきた中で、中学生の福祉体験学習の受け入れ、地域でのゴミ拾い活動への参加ができ、地域とのつながりが少しずつ増えてきています。	当初からコロナ感染の影響で、地域の行事も中止の中で、できることを検討してきました。今年度は地域の行事予定を見ながら、春のゴミ拾いを利用者1人と職員で参加し、中学生の福祉体験や夏祭りにはフラダンスのボランティアの受け入れ等、地域との付き合いを進めています。又、地域の方が畑作りを援助しています。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	運営推進会議や地区の地区長様とお話をさせていただき、グループホームの説明をしております。			
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、その意見をサービス向上に活かしている。	家族代表、民生委員、地域包括支援センター職員さんへ出席していただき、利用者様の状況、健康状態、苦情、事故状況、収支状況を報告しております。頂いた意見は職員で共有し、サービス向上に努めております。	2カ月に1回定期的に開催しています。(コロナの関係で開催できない時は報告を送り、意見をもらっていた)。事故報告に対してヒヤリハット報告を増やし、事故に至らないよう検討するといいいのでは等のアドバイスをもらうなど、職員間で共有し、サービス向上につなげています。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる。	2ヶ月に一度の運営推進会議に、地域包括支援センターの職員さんに出席していただいております。	運営推進会議に地域包括センター職員が参加しており、市との連携を図っています。また、制度についての質問や新しい情報についてなど、直接市の担当者に伺うなどしています。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	社内研修実地計画にて、3ヶ月に1回、身体拘束ゼロの手引きをもとに社内研修を行い、身体拘束をしないケアに取り組んでいます。	身体拘束について研修を実施しており、事例をあげて具体的にどうすればよいかを検討するなど、身体拘束をしないケアに取り組んでいます。また、パーソン・センタード・ケアを学び、利用者理解に努めています。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	管理者および職員は、年2回の研修会を行い、虐待が行われないように注意を払い、防止に努めています。			

自己	外部	項目	自己評価(事業所記入)	外部評価(評価機関記入)	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	職員が権利擁護の社外研修を受け、それをもとに社内研修を行いました。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	契約の締結・解約等の際は、利用者様やご家族様に、契約書や重要事項説明書を読み合わせ、理解・納得をして頂いております。改定時にはご家族様に十分説明しております。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	運営推進会議にてご家族様代表に参加していただいたり、ご家族様に電話をして意見や要望をお聞きしたりしております。コロナも5類になり直接ご家族様とお話する機会が増え、今まで以上に要望を聞く機会が増えています。	運営推進会議には、利用者や家族もメンバーにはいっており、意見を表せる機会があります。また、家族等からは、面会時や電話等で話を聞いています。面会や外出、利用者からは誕生会行事の希望など、できるだけ運営に反映させるように努めています。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	毎月全体会議を行い、そこに開設者が出席し運営や業務について意見、提案をしております。また定期的に職員に聞き取りを行っております。	毎年2~3月に個人面談があり、希望等についてヒヤリングが行われています。毎月の全体会や日頃から希望や意見を出せるなど、機会が設けられています。最近では、物価上昇に合わせて食費の予算増額の提案があり、運営に反映されました。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	開設者が定期的に現場の状況を確認し、また職員の意見の聞き取りを行い、職場の環境・条件の整備を行っています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	初任者研修や実務者研修、法人外の研修も、希望があれば勤務しながら受けられるように機会を作っています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。	研修会に参加した際など交流ができるよう努めております。		

自己	外部	項目	自己評価(事業所記入)	外部評価(評価機関記入)	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	入所決定時から面会させていただき、ご本人様の困りごと、不安なことをお聞きし、ニーズにあった対応ができるよう努めております。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	サービス導入前に訪問を、契約説明時に聞き取りを行い、ご家族様の話聞いて出来る限りお応えできるよう対応しております。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	契約時にご本人様とご家族様のニーズを確認し、その方にあった支援ができるよう努めております。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	グループホーム下瀬では家庭観を大切にできるよう、食事の準備や掃除、洗濯物等、職員だけが行うのではなく利用者様と一緒にやるよう心掛けています。		
19		○本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	2ヶ月に1度、ご家族様へ手紙を送り、利用者様の身体状況、活動の様子をお伝えしています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	コロナが落ち着いてきたため、ご家族様へ面会の提案を行うなど支援に努めております。	コロナ感染予防を配慮して、家族の面会を工夫してきました。現在は家族等を広げ、お孫さんや友人も面会に来られるように支援しています。電話等も希望に応じています。また、なつかしい場所として皆で市内見学と動物園ツアーに行き喜ばれていました。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	グループホーム下瀬では皆様分け隔てなくお話をさせていただきます。トラブルになる前に職員が間に入り、対応しております。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	サービス終了後も連絡をさせて頂いております。その際できることがあれば協力する関係を築いております。		

自己	外部	項目	自己評価(事業所記入)	外部評価(評価機関記入)	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	日頃から利用者様の声に耳を傾け、思いや希望をお聞きし、意向の把握に努めております。	ほとんどの利用者は意思表示ができませんが、日常生活の中で意識的に思いを汲み取り、会話の中で希望を聞くように配慮しています。会話や状況については、支援経過記録に記載しています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	レクリエーションや日々のコミュニケーションの中で、これまでの暮らしについてご本人から話をうかがい、把握に努めております。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	申し送りや全体会議で利用者様一人ひとりの一日の様子、状態の変化を報告し合い、変化がある際は全員で対応を考え、統一しております。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。	日常の様子を観察し記録に残し、昔からの趣味や、今何がしたいのか、日々の生活での発見等を活かし、職員やご家族様と話し合い計画をしております。	職員間のサービス担当者会議の要点録、検討した項目、内容、結論と課題、課題整理総括表、課題分析と、段階を追って記録を整備しています。それに基づいて家族等に説明や相談をし、サービス計画が立てられています。モニタリングは、項目毎に、職員が実施状況を毎日チェックしており、短期目標に対するの評価をしています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	当運営会社では、介護ソフト・介護システムほのぼのを導入しており、生活の様子、ケアに対しての様子を記入しております。その記録をもとに計画に反映しております。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	歯科衛生士や機能訓練士に指導を受け、既存サービスにとらわれないように努めております。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	コロナも5類になり、ボランティア等活用していければと思っています。		

自己	外部	項目	自己評価(事業所記入)	外部評価(評価機関記入)	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	契約時にご本人様やご家族様の希望にあった対応しております。受診等ご家族様が対応できない際は、グループホーム下瀬で対応できるような体制にしております。	かかりつけ医院の他、本人や家族の希望の医院の定期的な往診、通院で受診していますが、できない時は職員が対応しています。緊急時に往診してくれる医院もあり、適切な医療が受けられるように支援しています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	緊急時や異常時、また日常で変化がある際は、相談・報告を行い、指示を受けらるようになっています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は医療機関に情報提供、相談報告に努めております。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域との関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	入所契約時から重度化に対応していないこと、共同生活が困難になってきた時は、次の施設への申し込みと住み替えをお願いしています。その関係者にはご本人様の状況や好み等詳しく伝え、暮らし方やケアの継続性等に配慮して頂けるよう働きかけています。	重度化や終末期の対応については事業所のできることを、方針を伝えるなど入所時に説明を行っています。実際に、施設内での入浴が困難な状況になり始めた時期に、家族や関係者と話し合いを持って、家族等の希望を聞きながら次への方針を検討して、具体的な方向に向けて支援しています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	社内研修を定期的に行い、緊急時マニュアルに沿って対応しております。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	当運営会社ではBCPにて自然災害計画を作成し、各職員と研修会をしております。また年に2回消防訓練を行い、避難等の確認をしております。避難訓練時には地域の方々に参加していただき、一緒に訓練をしております。	自家発電機の設置、3日分の水タンク、食料などが整備されており、自然災害計画も作成されています。避難訓練は民生児童委員の参加もあり、年2回定期的に実施されています。	会社として、できる範囲の万全な対策をとられています。避難訓練のあと振り返りも実施されていますが、今後反省点をもとに具体的な改善点を明確にする、昼夜の災害時のイメージや避難後の生活のイメージ等をより具体的にするなどの取り組みを期待します。

自己	外部	項目	自己評価(事業所記入)	外部評価(評価機関記入)	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	一人ひとりが日々の言葉かけや対応に注意して、その人の性格や誇りを尊重し対応しております。	認知症や認知症ケアについての研修を実施しており、個人の尊重やプライバシーを守ることを日頃から意識するように努めています。介護を受ける側の立場に立つこと、利用者個々の嫌がることを把握して言わないなど、配慮して対応しています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	日常での会話から希望を聞くだけでなく、日常の会話から本人が思いや希望を言っていただけるよう努めております。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	一人ひとりの希望にそって、ご本人のペースに合わせて生活できるよう支援に努めております。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	自分でできる方は自分で用意していただき、支援が必要な方にはご本人様に確認したり、ご家族様に相談させていただき、その方に合った身だしなみができるように努めております。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	誕生日会等の行事で希望の食事をお聞きし、皆様で協力し合って作っています。普段では、お茶の準備をして頂いたり、盛り付けや野菜の皮むき、下膳や洗い物を協力して行っています。	栄養士が作成した献立表を元に、職員が調理しています。誕生月には希望を聞き、ちらし寿司、牛丼、お赤飯など、おやつにはどら焼きやフルーツポンチなど、みんなで作って楽しんでいます。また、野菜の皮むき、準備や片付け、洗い物など職員と一緒に取り組んでいます。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	栄養士が作ってくださった献立表をもとに食事作りをしています。そこから各々の好きなもの、嫌いなものを把握し支援に努めております。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。	毎食後口腔ケアを行い、補助が必要な方には声掛けや一部介助を行っております。義歯の方は、夜間入れ歯洗浄剤を使用しております。また必要に応じて社内の歯科衛生士に相談しております。		

自己	外部	項目	自己評価(事業所記入)	外部評価(評価機関記入)	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている。	グループホーム下瀬では大半の方が自立ですが失敗されることはあります。失敗をできる限り少なくできるよう、職員が定期的に言葉かけをし促しております。	ほとんどの利用者が、リハビリパンツや尿取りパットを使用しながらも自立しており、失敗や転倒をしないように、又パット等の確認をするなど見守っています。排泄チェック表をつけ、必要に応じて、他の利用者にはわからないよう配慮しながら声をかけています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。	水分を多くとってもらうために、同じ飲み物だけではなく、味を楽しめるように工夫しております。また栄養士や主治医と常に相談し、食事では食物繊維の多い食材を提供できるよう努めております。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている。	指定の曜日、時間にて入浴を行っているのが現状です。	週4日入浴日を決め、利用者の希望や体調等を見ながら、全員の利用者がそれぞれのペースで入浴できるように支援しています。皮膚の弱い方用に入浴剤を用意する、季節によって、いただいたゆずや花梨の湯にするなど楽しんでいただいています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。	寝具は馴染みの物を持ってきて頂いています。夜間しっかり休めるよう、日中はレクリエーションや作業に参加して頂いておりますが、睡眠や休息はご本人様のペースで頂いております。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	薬局が定期的に訪問していただき、薬剤師の方の指導を受け、変化がある際は相談させて頂いております。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。	利用者様一人ひとりの得意なこと、役割を理解し、その方に合った仕事ができるよう努めております。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	希望がある際はご家族様にお話をし、対応して頂いております。ご家族様の対応が難しい際は、グループホーム下瀬で対応しております。	通院の後に外食、法事や親族の集まりに参加するなど、家族の協力を得ています。春にはお花見ドライブや、動物園に行き楽しんできました。秋には紅葉狩りを計画しています。日頃は、畑を見に行ったり、敷地内を散歩したり希望を聞きながら支援するように努めています。	コロナ感染予防のため外出が制限されてきました。今後、全体での外出のほか、日常的に少人数での散歩等意識的に取り組まれ、玄関先まで、隣のデイサービスまでなど、短時間でも外に出られる機会を作られることを期待します。

自己	外部	項目	自己評価(事業所記入)	外部評価(評価機関記入)	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	ほとんどの方が、ご家族様が管理しており、必要時対応して頂いております。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	希望時には対応できるよう環境を整えています。また手紙を下されたご家族様にお返しできるよう支援しております。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	季節を感じられるよう、職員が利用者様と一緒に、手作りで飾りつけを作成しております。	居間兼食堂には、利用者と一緒に作成した作品等が季節に合わせて飾られており、窓から見える外の景色からも季節を感じられます。トイレや洗面所等分かりやすく説明が貼られ、混乱しないような配慮、脱衣室の取っ手やベッド柵等危なくないようカバーをするなど、安心して快適に過ごせるよう工夫がされています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	独りになれる空間は居室ですが、各々が食堂で過ごしたり、他の方を自分の居室にお呼びし、外の景色を見ながらお話をされております。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	入居時にご本人様、ご家族様のこれまでの生活状況を確認し、要望に合わせて環境作りに努めております。	テレビ、ベッド、椅子、テーブル、ぬいぐるみ、色鉛筆、アルバム等、本人の使い慣れた家具やお気に入りの品が置かれ、居心地よく過ごせるように支援しています。又、家族からのはがき、孫が持参した絵などを飾られている方もいました。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	居室には名札や居室名を花の名前にしており、分かりやすい工夫にしております。また移動時転倒がないよう歩きやすいような物の配置になっております。		